

近現代における奄美島唄の伝承の研究及び歴史的録音のデジタル化

梁川英俊（多元地域文化コース教授）

アンニ（人文社会科学科博士後期課程学生）

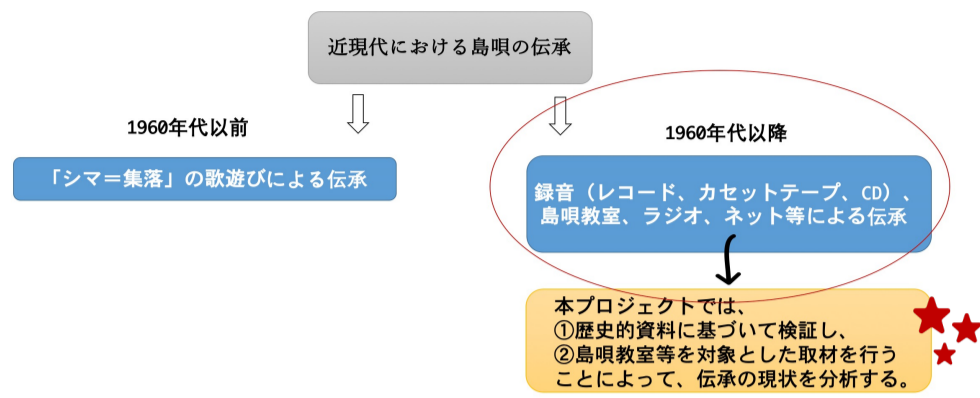
目的

①近現代における奄美島唄の伝承というテーマについて、**奄美群島と本土**という二つの視点から調査研究を行う。

②島唄関係の**歴史的録音を発掘し、保存**する。

今年の対象：

久保けんお（1921～1991、喜界島出身、民謡研究家、1960年南日本文化賞受賞者）が残した音源である。



内容

1) 本土と奄美群島における島唄教室の調査

本調査は、令和4年度同プロジェクト「近現代における奄美島唄の伝承の変遷に関する研究」における調査の継続である。

今年度のプロジェクトでは、特に奄美群島内の**徳之島**の島唄教室に注目した。徳之島は島唄が盛んな島で、奄美民謡大賞にも多くの参加者を送っているが、大島とは異なる徳之島独自の唄が多くあり、近年は地元の唄を尊重しようという意識が高まっている。

2023年11月から2024年3月末にかけて、この徳之島を中心に、関東、奄美大島、喜界島の島唄教室やその関係者インタビュー調査等を行い、今日の島唄伝承の変遷や現状に関する調査・分析を試みた。

本土、奄美大島、喜界島

2023年11月22日東京 梁川
①東京三線会の関係者にインタビューを行う

2024年1月20日奄美大島 梁川
②歌手・中孝介氏の母で唄者の中ほずみ氏にインタビューを行う

2024年2月27日喜界島 梁川
③唄者・川畑さおり氏にインタビューを行う

徳之島

2024年3月27～30日徳之島 梁川、アンニ
★教室見学
①「泉憲秀三味線教室」
②「泉サダ子三味線教室」
③「治井春代島唄教室」
④「中水勝久三味線教室」

★指導者にインタビューする
東博光氏
中島清彦氏
指宿桃子氏



取材風景抜粋
(左から泉憲秀氏の三味線教室、中水勝久氏の三味線教室)

2) 民謡研究家・久保けんおの録音資料のデジタル化

民謡研究家・久保けんおは、『南日本民謡曲集』（1960）を出版した南九州の民謡の採集のパイオニアとして知られている。久保が生前鹿児島県立図書館に預けた録音資料（オープンリール72本、カセットテープ11本、計83本）は、昭和40年代に島嶼地域で録音された貴重な録音だが、特にオープンリールの劣化が著しく、デジタル化が急務である。

梁川はこの資料の一部を県立図書館から「鹿児島の近現代」教育研究センターに移管し、劣化したテープ類のデジタル化に関して専門技術を有する業者に依頼した。昭和40年代にNHKの協力で行われた南西諸島の民謡の録音をはじめとする、資料的な価値の高い30本を優先的にデジタル化した。



デジタル化した久保の録音資料の一部

名称
南日本わらべ唄曲集.pdf
南日本民謡曲集.pdf
南日本民謡曲集 訂正.pdf
民謡の知恵.pdf
鹿児島+沖縄のわらべ歌.pdf
久保II001-20-24連.pdf
久保II001-16-19連.pdf
久保II001-13-16連半分.pdf
久保II 26-30連.pdf
久保民謡辞典5.pdf
久保民謡辞典4.pdf
久保民謡辞典3.pdf
久保民謡辞典2.pdf
久保民謡辞典1.pdf
久保001-1-8連.pdf
久保001-9-13連半分.pdf
徳之島の民謡.pdf

喜界島中央公民館で収集した久保資料の一部

成果

・学術的成果

梁川が作曲家の原田敬子氏と共同で執筆・出版したブックレット『**南日本の民謡を追って—久保けんおの仕事**』が出版された。また、2024年3月にシンポジウム「**21世紀の奄美島唄**」（「鹿児島の近現代」教育研究センター主催）における梁川とアンニの発表は、本プロジェクトの直接の成果である。

・地元への貢献

島唄の戦後史を描いた梁川の著書『「かずみ」の時代』（2023）は、奄美大島の新聞等で広く取り上げられ、SNS等でも話題になった。また、本プロジェクトの調査そのものがSNS等で取り上げられ、地元の島唄関係者たちの関心を引いた。2024年4月から南海日日新聞紙上で梁川が連載を開始したことも、本プロジェクトの副産物と考えられよう。

・島唄研究資料の充実

鹿児島県立図書館に保管されていた久保の録音資料の一部を整理・分析し、来るべきデジタルアーカイブ構築の基礎作業を行った。資料全体の分析は今後の課題であるが、貴重な録音が多く、適切に分類・整理することによって、将来的には奄美群島を含む南日本の音楽文化を語る上で貴重な研究資料となるはずである。

